

**製品名: ラミニン  $\beta$ -3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13202**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	LAMB3
別名	LAMB3; LAMNB1; Laminin subunit beta-3; Epiligrin subunit beta; Kalinin B1 chain; Kalinin subunit beta; Laminin B1k chain; Laminin-5 subunit beta; Nicein subunit beta
遺伝子 ID	3914.0
SwissProt ID	Q13751
免疫原	抗血清はヒト LAMB3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 671-720

**背景**

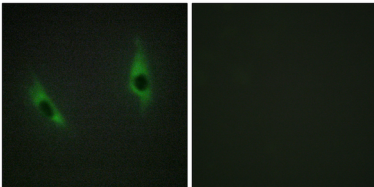
この遺伝子によってコードされる産物は、基底膜タンパク質ファミリーに属するラミニンです。このタンパク質はラミニンのベータ

サブユニットであり、アルファサブユニットおよびガンマサブユニットとともにラミニン 5 を形成します。この遺伝子の変異は、皮膚の水疱を特徴とする疾患である接合部ヘルリッツ型表皮水疱症、および全身性萎縮性良性表皮水疱症を引き起こします。この遺伝子については、同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: LAMB3 の欠陥は、接合部ヘルリッツ型表皮水疱症 (H-JEB) [MIM: 226700] の原因です。接合部表皮水疱症ヘルリッツ・ピアソン型としても知られています。JEB は、真皮表皮基底膜内で発生する組織分離を特徴とする水疱性皮膚疾患のグループを定義します。H-JEB は重症で、乳児期に発症し、致死的な病型です。通常は生後 6 ヶ月以内に死亡しますが、まれに 10 代まで生存することもあります。H-JEB は、出生時に水疱性病変を呈し、皮膚および粘膜の広範な剥離を特徴とし、出血を伴う場合もあります。疾患: LAMB3 遺伝子の欠陥は、汎発性萎縮性良性表皮水疱症 (GABEB) [MIM:226650] の原因となります。GABEB は、生涯にわたる皮膚の水疱を特徴とする、成人型の非致死性の接合部表皮水疱症です。毛髪や歯の異常を伴います。ドメイン:ドメイン VI は球状です。ドメイン:アルファヘリカルドメイン I と II は、他のラミニン鎖と相互作用してコイルドコイル構造を形成すると考えられています。機能:ラミニンは、高親和性受容体を介して細胞に結合し、他の細胞外マトリックス成分と相互作用することにより、胚発生中に細胞の接着、移動、組織への組織化を仲介すると考えられています。類似性:ラミニン N 末端ドメインを 1 つ含みます。類似性:ラミニン EGF 様ドメインを 6 つ含みます。サブユニット:ラミニンは、3 つの異なるポリペプチド鎖 (アルファ、ベータ、ガンマ) で構成される複雑な糖タンパク質です。これらの鎖はジスルフィド結合によって十字形の分子に結合しており、ベータ 3 はラミニン 5 (エピグリリン/カリニン/ナイスイン) のサブユニットです。組織特異性:基底膜に存在します (主成分)。

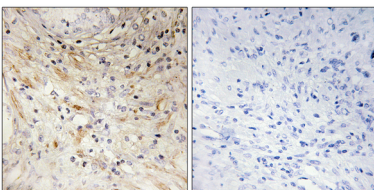
## 研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、がんにおける経路、小細胞肺がん、

## 画像データ



LAMB3 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



LAMB3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト前立腺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。